Sete Capítulos sobre a Modernização Japonesa

つ事を願っています」と述べた。

□約１時間半のシンポジウムでは、同ＤＶＤ第３章「戦後日本の政治外交」が紹介された。田中明彦政策研究大学院大学学長が講義し、第２次世界大戦後、日本がどの様に他国の政治的圧力から立ち直り、海外で国際貢献ができるまで発展したかが分かるように、様々な映像や写真、数値データなどが盛り込まれた内容になっている。

□ＤＶＤの視聴後、国際関係研究所　（ＵＳＰ）の大貫ジャニナ教授兼所長と二宮正人国際比較法学部教授が約１５分の講評を行った。

DRA. JANINA ONUKI

大貫ジャニナ教授

□大貫氏は「ＤＶＤの完成と記念シンポジウムは、ＵＳＰとフジタ・ニノミヤチェアにとって大変光栄です。日本とブラジルは長年、良好な関係を築いてきました」とコメントした。

□二宮氏は敗戦からの奇跡的な復興と米国との関係について説明した後、「日本は敗戦で台湾や朝鮮半島、中国、太平洋の島々の支配地を失い、そこで生活していた日本人の多くの住人や軍人が日本列島に戻りました。日本政府は彼らの仕事を作るためにも移民を送りました。ＪＩＣＡは移民を支援し、現在は日本と世界各国の関係を維持する国際貢献に尽くしています」と締めくくった。

□質疑応答では「日本の少子高齢化について」「戦後日本はどうして発展できたのか」などの質問が寄せられた。少子高齢化問題について、二宮氏は「有効な解決策は外国人の受け入れと見られており、現在も日系ブラジル人やペルー人が日本で働いています。しかし、法的な整備が不十分で効率的なシステムが確立されていないのが現状です」などと回答した。